2020年各施設入院手術統計

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ケ谷中央病院	横浜掖済会病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
頚部																								
甲状腺癌	亜全摘術																				10			10
	全摘術																				2			2
	その他																							0
甲状腺腫	亜全摘術																							0
	葉切除術																				31			31
	その他																							0
その他				2										2							1			5
乳腺																								
乳癌	乳房全切除術＋乳房再建	1	23			66	3		9	6	27								10		1			146
	乳房全切除術（再建なし）	34	131		52	1	19	17	107	88	101	58		7			2		188		7		47	859
	乳房部分切除	45	75		19	39		3	98	63	89	28		5					93		18		41	616
	その他	1	1						3	5		1							2					13
乳癌局所領域再発	乳房全切除術	3	4	9	3				4	1				1					5			1	2	33
	乳房部分切除		5	7	1					2									0				1	16
	その他	8	4						11	3	4	2					2		12				1	47
良性腫瘍	乳房全切除術										2								0					2
	腫瘍摘出術	2	4	2		4		3	9	9	22	6					1		0		10		5	77
	その他	1							1	3									28					33
その他			9						25		1								9					44
胸部																								
原発性肺癌	肺切除術																				5			5
	肺葉切除術					20																		20
	部分切除術（胸腔鏡）					20															10			30
	その他					2																		2
転移性肺癌	肺葉切除術																				1			1
	部分切除術（胸腔鏡）					14								1							4			19
	その他																							0
その他の肺腫瘍						5								1										6
縦隔腫瘍	胸腺摘出術					5																		5
	その他					2															4			6
膿胸	ドレナージ術					1								1							3	2		7
気胸	ブラ縫縮切除術					1																		1
	ブラ縫縮切除術（胸腔鏡）					13								1							30			44
その他	（肋骨腫瘍切除）					2																1		3
食道																								
食道癌	食道抜去術																							0
	３領域郭清		9									3				5								17
	２領域郭清	6	5	1	5	1				1	1			1		4					5			30
	頚部食道＋喉頭全摘																							0
	その他	2	4					1		1				1								1		10
良性腫瘍	切除術																				1			1
その他			3			2																		5

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
胃十二指腸																								
胃癌	腹腔鏡（補助）下噴門側胃切除術	2	20		1		1			5	1					5								35
	幽門側切除	6	13	18	27	17	3	5		15	7	22		7		16	4				9			169
	腹腔鏡（補助）下幽門側胃切除術	6	48	7	8	2	1			15	7	10		5		33	2				11			155
	幽門保存胃切除術																							0
	腹腔鏡（補助）下幽門保存胃切除術	1								1														2
	胃全摘術	5	13	9	7	11	3	2		18	15	9		4		9	3				7			115
	腹腔鏡（補助）下胃全摘術		7							6		3				6								22
	胃空腸吻合術	1	1	1	1		1			7	1	3				4	1				5			26
	腸瘻造設術				1					6	1													8
	部分切除術									1														1
	その他（試験開腹術含む）	15	5		9	3	1			1	3	5				4	1					1		48
残胃癌	残胃全摘術		3		1	3				3	1	1		2		5								19
	残胃空腸吻合術	1																						1
	腸瘻造設術																							0
	その他							1		1														2
胃粘膜下腫瘍	部分切除術	4		4	4	1						1				2								16
	腹腔鏡（補助）下部分切除術	3	14	1	3					2		5				7	1							36
	幽門側切除術		2							0														2
	胃全摘術																							0
	その他		2		1	1																		4
胃潰瘍				3	3	3		1			3													13
十二指腸癌	PD			1												2					4			7
	胃空腸吻合術																							0
	部分切除術										1													1
	その他									1														1
十二指腸潰瘍	広範囲胃切除術																							0
	単純閉鎖術									2														2
	単純閉鎖＋大網被覆術			1	6	2	2	3		4	3	3												24
	大網被覆術（腹腔鏡）	1										2				1	1							5
	その他			7		2	4			1														14
十二指腸 GIST	部分切除術	2	1		1											1								5
その他		1	1	1		1		2		7		1					1							15
大腸																								
結腸癌	開腹腸切除術	4	4	9	29		5	18		8	15	10		11	2	34	2				29			180
	腹腔鏡下切除術	49	164	63	83	69	25	15		114	63	119	7	25	5	73	12				39			925
	非切除人工肛門	7	4		1	3	3			25	10	7				5	3				5			73
	その他	1		1				3		9	1	13		2	1					13				44
直腸癌	開腹前方切除	1		1	1		1	3			1			3		9	2				4			26
	開腹 ISR																							0
	開腹直腸切断術				1											1								2
	腹腔鏡前方切除術	10	72	35	30	14	9	3		8	2	33	1	8	2	24	2				22			275
	腹腔鏡下 ISR					1											1							2
	腹腔鏡下直腸切断術	2	9		5	1	1			1		7												26
	ロボット支援下直腸切除術	42				17				26	21					26					13			145
	TaTME	2	20							7														29
	骨盤内臓全摘術		4		2					3						1								10
	局所切除術																							0
	非切除人工肛門	3	25	1	4	8	2	3		19	4	7			1	4	1				10			92
	その他（Hartmann を含む）	6	1		6					2	3	5	1	1	1	1				12	16			55

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
肛門管癌	開腹直腸切除術																							0
	腹腔鏡下直腸切除術			1																				1
	局所切除術	1								2						2								5
	非切除人工肛門		1													1								2
	その他																							0
NET		3				1				1						5	1							11
人工肛門状態	閉鎖術	29	80	10	19	26	5	4		53		18		10	8	23	3							288
潰瘍性大腸炎	造設術				51											1								52
	大腸亜全摘術		17		11											1								29
	大腸全摘術		11		31																			42
	残存直腸切除術		13		13																			26
	空腸部分切除術																							0
	その他		4		20																			24
Crohn 病	小腸部分切除		21		104											2								127
	結腸切除術		5		24							1												30
	その他（Seton）		3		29																			32
小腸腫瘍	切除術	1	5	2		2				4					1	4								19
	その他		1							2														3
その他		9	3	3	3		5			18		21		3		3	1							69
肛門																								
痔核	結紮切除術				3		4	2		3	4	1			1	35	7			2404	170			2634
	PPH 法						1																	1
痔瘻	根治術		2		1		2			2		1		2	1	20	11			977	125			1144
肛門周囲膿瘍	切開排膿術		2		1			1			1	4		3		4	11			511	20	1		559
裂肛																3				145				148
直腸脱	Gant-三輪法など			1	64	1	6	1			3	4		1		7	1			12	30			131
肛門狭窄			1		1	3										1				206	16			228
その他			3	1			2			1			1	3	1	6	4			1924		1		1947
消化管その他																								
急性虫垂炎（幼児）	虫垂切除術	1		16	14	18				2	16	13												80
急性虫垂炎（成人）	虫垂切除術	7	15	32	65	55	22	17		79	93	89		33	8	70	19				77			681
腸閉塞	癒着剥離術	8	9	11	15	10	1	3		20	40	28	1	4		23	3				20			196
	腸切除術	3	8	9	8	8	5			22	20	15	1	4		5	3				7			118
	吻合術	4	1	1	6	2	1			1	5			1		4								26
	その他（人工肛門造設）				5	3	1			7	5		1											22
縫合不全	腸切除術	1			2																			3
	ドレナージ術	2	1		1		1				1			1	1									8
	人工肛門造設術	1	2		2	2	1			4		2		2		2	1							19
大腸憩室炎	切除術	2	6	3	18	6		3		8	6	1		4	1	2								60
	ドレナージ術									1		2		1										4
	その他	2								3				1										6
汎発性腹膜炎	腸切除術	1	5			5		4		8	3	17		2		5								50
	人工肛門造設術	2	3	7	51	7	6	3		9	14			3		1								106
	ドレナージ	3	10	6		3	1			6	3	6		1		7					4			50
その他			3	25						19	12		1	1			1							62
肝胆道																								
原発性肝癌（HCC）	肝切除術（開腹）	10	5	7	7	5				9	5	4		3		5	1				3			64
	肝切除術（腹腔鏡下）	9	3	6		1					1	3				1								24
	その他					1																		1

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
原発性肝癌（CCC）	肝切除術	4	3	1		2		1		1	3	3				1								19
	その他	1									1													2
転移性肝癌	肝切除術（開腹）	6	26	5	6	4		1		5	5	7		7	1	10	1				8			92
	肝切除術（腹腔鏡下）	3	10	6	1	1				8	2	5				4								40
	その他		2																					2
胆嚢癌	胆嚢摘出術			1		1				2						1								5
	胆嚢床切除	3	3	1	1	1				2	1	1				2								15
	拡大肝切除術			2	1						1	2		1		1								8
	肝切除＋PD															1								1
	その他	4								1		2												7
遠位胆管癌	PD	9	3	3	1	5				1	2	1		1		3					5			34
	肝切除＋PD																							0
	その他	1																						1
乳頭部癌	PD	6	5							2	1	3				4								21
	その他																							0
肝門部領域胆管癌	肝切除術	10		1	1						1	1												14
	肝切除＋PD	1																						1
	拡大肝門部胆管切除＋PD																							0
	胆管切除			1																				1
	その他	7									1													8
肝血管腫	肝切除術	2	1								1	1				1								6
肝嚢胞	肝切除術			1							1	1												3
	開窓術	2		1	1						1	2		1										8
肝膿瘍	ドレナージ術																							0
	開窓術																							0
肝内結石	肝切除術			1		1					2													4
	その他																							0
胆嚢結石	開腹胆嚢摘出術	3	5	47	13	5		15		3	35	2		7		10	3				11			159
	腹腔鏡下胆摘術	32	27	88	85	79	42	32		175	97	162	1	56	25	123	22				84			1130
総胆管結石	総胆管切開術			1			2				1	1				1								6
	その他				1					1														2
胆嚢ポリープ	開腹胆嚢摘出術		1											1										2
	腹腔鏡下胆摘術	2	1	9	2	4				1	4			2		22	2							49
	その他			3											1									4
総胆管嚢腫	嚢腫切除胆道再建	2	1													1								4
膵胆管合流異常	胆嚢摘出術	1								1	1													3
	その他		1																					1
生体肝移植		1																						1
その他（良性乳頭部胆摘総胆管切開術（R）		1									2													3
膵臓・脾臓																								
膵癌	PD	35	12	12	5	10				2	10	20		5		15	1				4			131
(IPMN, MCN を含む)	TP	1	1		1						1	2				2								8
	膵体尾部切除	28	5	7	7	5				2	4	10		1		13					2			84
	部分切除	5	1	2												3								11
	試験開腹・生検	24	1								1			1		1								28
	消化管バイパス手術	1								1	2	2		1		1								8
膵嚢胞	切除術																							0
慢性膵炎	PD																							0
	その他	1	1																					2

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
脾摘適応疾患	脾臓摘出術（開腹）				1					1	1	1												4
	脾臓摘出術（腹腔鏡）	2				1				2	1					2								8
その他		1				2				2		7												12
ヘルニア																								
腹壁瘢痕ヘルニア	根治術	2	2	10	5	2	6	1		9	17	8	2	5	7	12	6				7			101
臍ヘルニア	根治術		1	5			2	1		5	5	2	1	2	2	6	1							33
鼡径ヘルニア（幼児）	根治術			2		3	3				1	1												10
鼡径ヘルニア（成人）	根治術（従来法）		1	76		2				1	10										19	1		110
	根治術（腹腔鏡）			5	16	29	36	7		8	48	78	22	53	88	7	73				86			556
	メッシュプラグ				104	57	1	57		108	25	5	5	3	2		18							385
	PHS										4					172								176
	その他		1			7	30			52	35	105	10	12	4									256
大腿ヘルニア	根治術			2	3	1		5		10	1	1		1	2	1	3							30
閉鎖孔ヘルニア	根治術	1	1		1		1			6	2				1	1								14
その他		4	1		1		1				1	2												10
血管																								
下肢静脈瘤	stripping													3										3
動脈血栓症	血栓摘出術					1																		1
腸間膜動脈血栓症	腸切除術					1								1										2
門脈塞栓術		14	2			1					1			2										20
その他			1	49		19	9	37		86	1	12		26	13		23							276
術後出血	開腹止血		1			1				1	1	1												5
	開胸止血																							0
後腹膜・腎																								
後腹膜腫瘍	腫瘤切除	2	3	1						1		3		1		6								17
その他										1		6		2	1									10
体表																								
その他		2		18			1	7		29	75	14	20	11	12	19	22	34			26	61		351

疾患別５年生存率

乳　癌

山田顕光、山本晋也、成井一隆

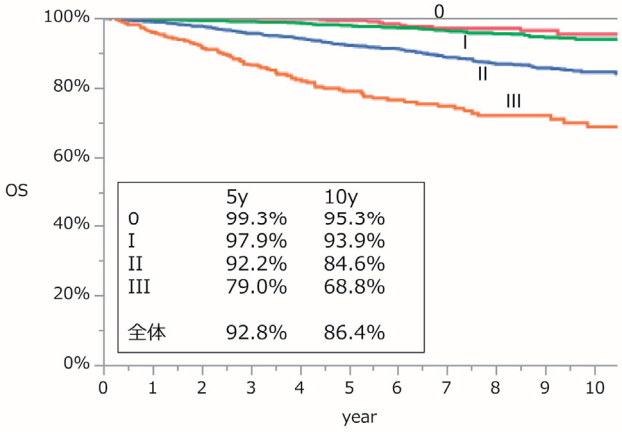
2020年度はコロナ禍に終始した一年でした。附属病院の乳癌診療においては、緊急事態宣言付近の2020年４、５月において、術後フォローの患者さんを中心に受診控えが起こり、外来総数は前年同月の３分の２程度に落ち込みましたが、年平均で見ると昨年と比べ新患数や外来総数は変わりませんでした。緊急事態宣言中は、術後ホルモン治療の方を中心に、多い時で外来の２割ほどの方に電話診療を行い、オンライン診療の利便性・可能性を実感した時期でもありました。

2020年４月から遺伝性乳癌卵巣癌で乳癌または卵巣癌を発症した患者のリスク低減乳房切除術が保険収載され、附属病院ではリスク低減手術を行う体制を整えましたが、コロナ禍のなか予防的切除は緊急性が低いことから、年度内の実施には至りませんでした。またテクスチャードインプラントによるリンパ腫の発生が報告され、2019年７月から中止になっていた人工物再建は、スムースインプラントの認可に伴って2020年11月に再開されました。

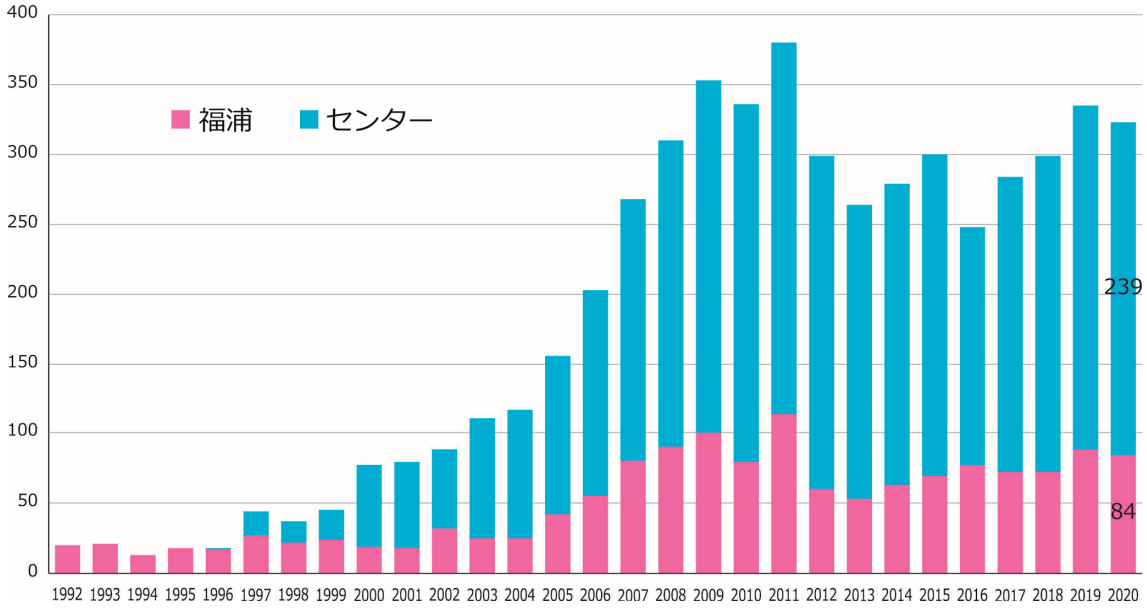
2020年の原発性乳癌の手術件数は、323件（福浦84件、センター239件）とほぼ横ばいでした。一方、術式の内訳では再建手術数が減少し、コロナの影響と、センター病院で形成外科スタッフの入れ替えがあったこと等が要因と考えられました。附属病院とセンター病院両施設における乳癌手術症例全体の５年全生存率は92.8％、10年全生存率は86.4％でした。Stage別５年生存率は、０期：99.3％、Ⅰ期：97.9％、Ⅱ期：92.2％、Ⅲ期：79.0％で、10年生存率は０期：95.3％、Ⅰ期：93.9％、Ⅱ期：84.6％、Ⅲ期68.8％でした。

月に一度の研究カンファレンスはコロナ以後オンラインで開催継続し、研究に関する議論のほか臨床上の問題点の共有を図っています。また2018年度から引き続き、附属・センター・横浜労災・みなと赤十字・横浜市民病院が横浜市乳癌連携病院として遺伝診療、人材育成、市民啓発に連携して取り組んでいます。

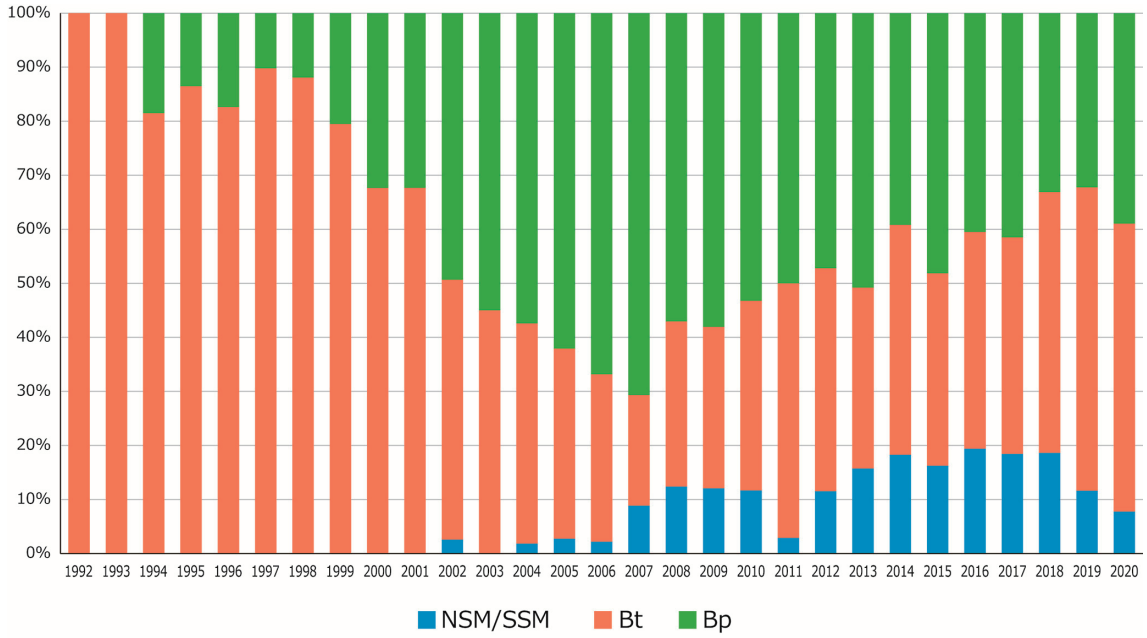
再び皆で直接顔を合わせて議論できる日を待ちながら、本年も技術を磨き、知識を深め、個々の患者に最適な医療を提供できるよう、研鑽を積む所存です。引き続き、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



Stage別10年生存率



乳癌手術件数の年次推移



術式の年次推移

食　道　癌

小　坂　隆　司

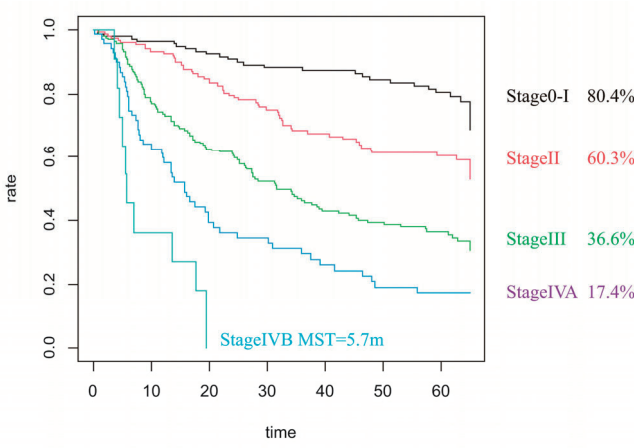
2020年の食道癌切除症例は福浦6例、センター16例で合計22例、1992年からの合計は592例であった。

全切除症例の5年生存率は50.8％であり、Stage0-I=80.4％、II=60.3％、III=36.6％、IV=17.4％であった。

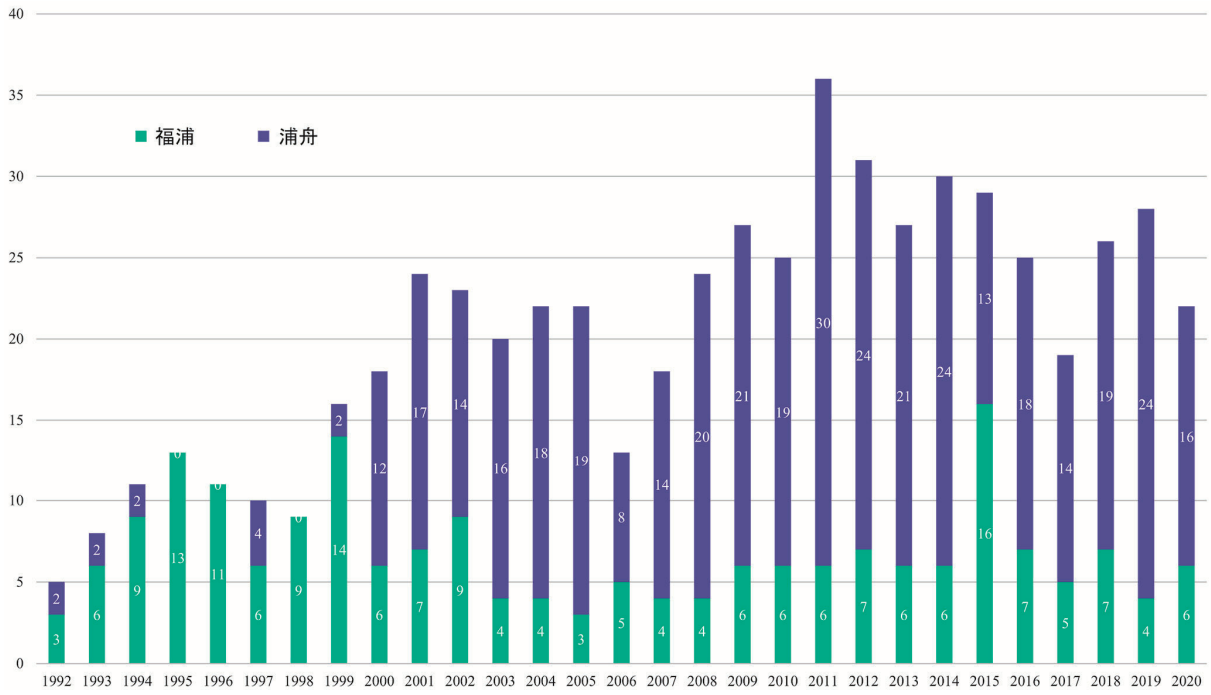
手術は腹腔鏡・胸腔鏡を用いた低侵襲手術を基本としており、周術期の腸瘻を用いた経腸栄養・ICU在室中のリハビリテーションを積極的に行っている。

また非切除進行食道癌の治療も積極的に行っており、いままでに923例に治療を行った。

化学放射線療法を施行し切除可能になった症例にはサルベージ手術も積極的に行っている。



食道癌切除例　Stage別生存率



食道癌切除数　年次推移

2020年　福浦：6例、センター：16例

1992年から　計592例

胃　癌

佐　藤　　渉

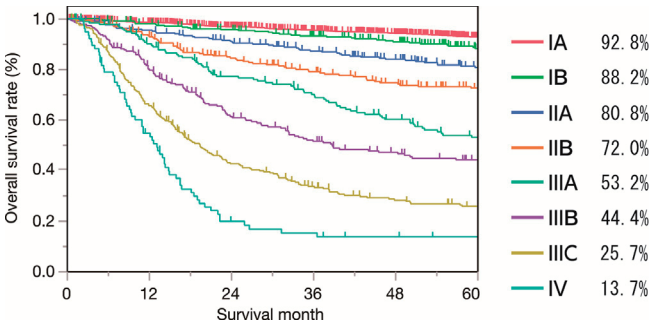
2020年の胃癌切除症例は福浦28例、センター108例で合計136例、1992年からの合計は3,270例であった。

全切除症例の5年生存率は74.4％であり、StageIA=92.8％、StageIB=88.2％、StageIIA=80.8％、StageIIB=72.0％、StageIIIA=53.2％、StageIIIB=44.4％、StageIIIC=25.7％、StageIV=13.7％であった

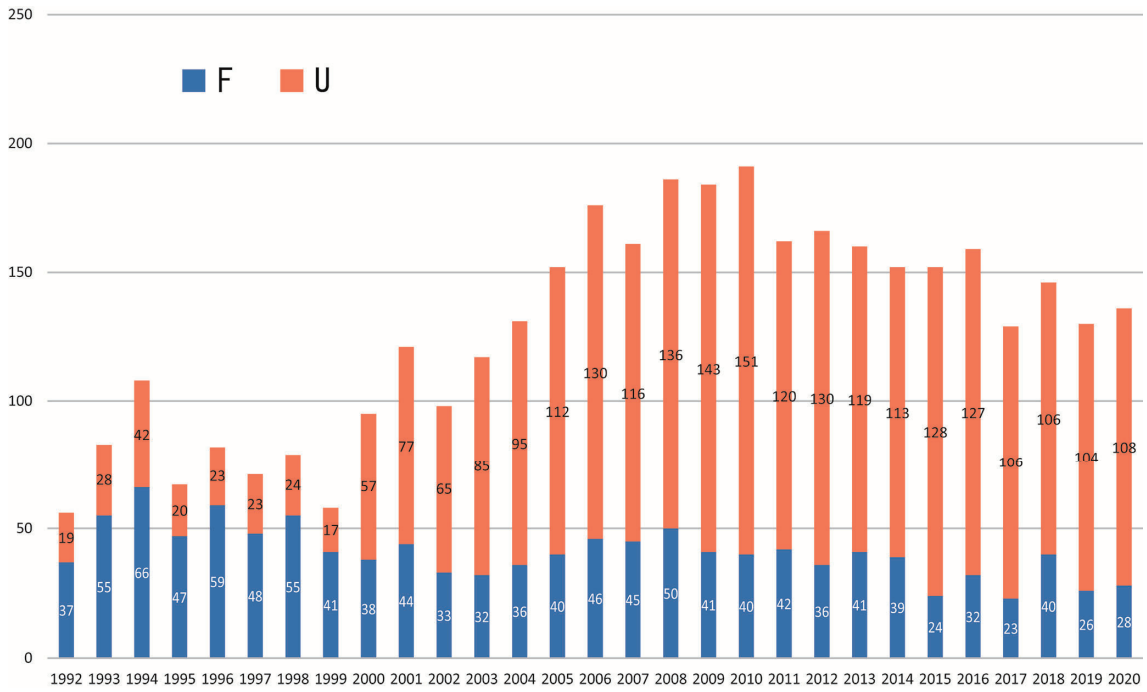
早期胃癌を中心に腹腔鏡手術を積極的に行っており、全手術数の約6割以上を腹腔鏡手術で行っている。

また最近増加傾向に対する上部胃癌に対する噴門側胃切除＋ダブルトラクト再建や、中部早期胃癌に対する幽門輪温存胃切除術など、できるだけ胃を残す手術を積極的に施行している。

進行胃癌に対する術前化学療法はJCOGの臨床試験に登録し行っている。



胃癌切除例　Stage別生存率



胃癌切除数　年次推移

2020年　福浦: 28例、センター: 108例
1992年から　計3708例

大　腸　癌

石　部　敦　士

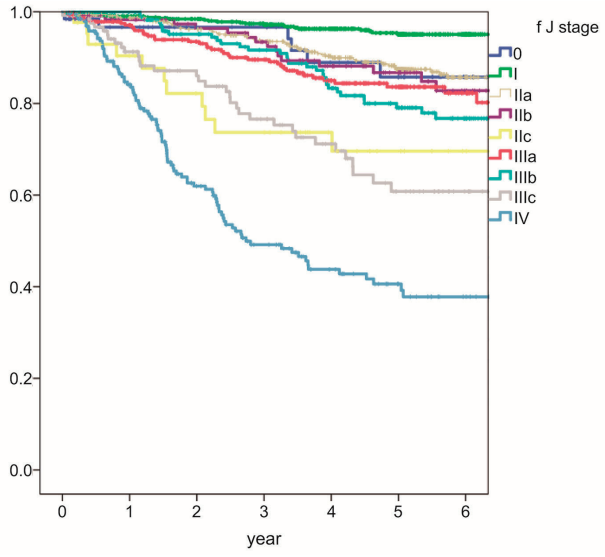
2020年の手術件数は福浦131件、消化器病センター322件、合計453件でした。Stage別の5年生存率は結腸癌：I＝95.1％、IIa＝87.5％、IIb＝86.7％、IIc＝69.6％、IIIa＝83.6％、IIIb＝79.1％、IIIc＝60.8％、IV＝40.6％（手術症例のみ）、直腸癌：I＝93.1％、IIa＝90.5％、IIb＝73.3％、IIc＝64.5％、IIIa＝80.9％、IIIb＝68.0％、IIIc＝57.3％、IV＝35％（手術症例のみ）となっております。

附属病院では石部・小澤・中川が、市民総合医療センターでは渡邉、諏訪、後藤が中心となって診療を行っております。診療においては新しい手術アプローチとして、経肛門からTMEを行うtransanal TME（taTME）やロボット手術が全国的に徐々に普及しつつあります。直腸癌に対するロボット手術は急速に普及し、当科でも多くの関連施設でもダヴィンチが導入されてきています。附属病院では直腸癌手術の80％がロボット手術で施行されており、全国的にも直腸癌に対しては腹腔鏡下手術よりもロボット手術が多くなることが予想されます。

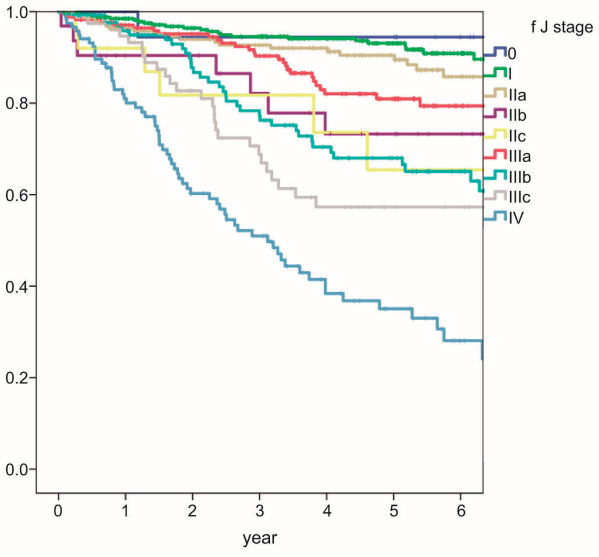
局所進行直腸癌の治療においては本邦の標準とされているTME＋側方郭清のみならず、さらに治療成績を向上させるためTNT（Total neoadjuvant therapy）として術前化学療法・放射線化学療法後にTMEを施行する症例も多くなってきております。

2019年から始めた月1回開催される大腸グループ勉強会では、徐々にその成果があらわれ、2020年度は計25本の英語論文がアクセプトされました。特に若手の先生に多くの論文を執筆していただきました。臨床研究においてはYCOG新規臨床研究として、結腸癌患者に対する腹腔鏡下結腸切除術・体腔内吻合の在院日数短縮効果を検討する並行群間ランダム化比較試験（CONNECT study）や、特定臨床研究として直腸癌腹腔鏡下手術における一時的回腸人工肛門造設に対する癒着防止材の有効性に関する多施設共同ランダム化比較試験（ADOBARRIER study）などを開始し、新しいevidenceを確立できるよう努めています。

本年も大腸癌治療の成績向上を目指し、手術手技、知識の研鑽、後進の育成を行ってまいります。



結腸癌



直腸癌

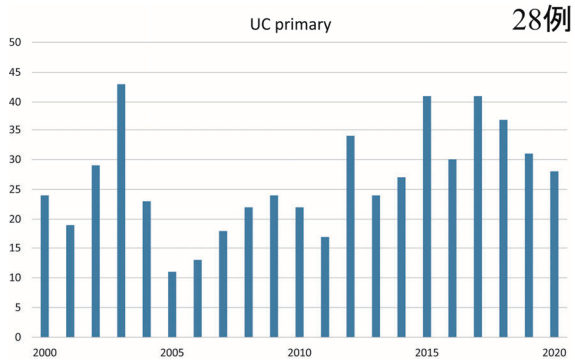
炎症性腸疾患

木　村　英　明

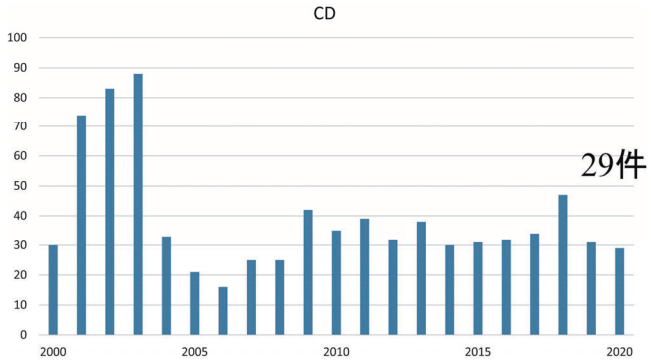
2020年のセンター病院炎症性腸疾患（IBD）センターの総手術件数は92件で、ほぼ例年同様でした（潰瘍性大腸炎初回手術28例、2期目再建手術13例、Crohn病29例、その他腸管Behcet病／単純性潰瘍、憩室炎による瘻孔など）。

2000年からの潰瘍性大腸炎の累積手術例は558例、当科初回手術例は540例で、手術適応は難治327例（61％）、重症167例（31％）、癌、dysplasia46例（9％）、1期的手術は277（51％）、緊急手術は151例（28％）でした。用手腹腔鏡手術（HALS）は184例（1期的大腸全摘回腸嚢肛門管吻合146、大腸全摘回腸嚢肛門吻合＋人工肛門33）で、2007年以降の1期的手術の90％をHALSでおこないました。一方、本年より消化器病センター大腸グループとの合同手術も導入し、TATMEに準じた腹腔鏡下粘膜抜去や腹腔側の完全腹腔鏡手術を開始しました。引き続き新たな術式の導入を進めてまいります。術後成績は、1年後の1日排便回数は7.7、漏便（soiling）は12％で、回腸嚢使用例の回腸嚢機能率は術後10年で98.7％でした。

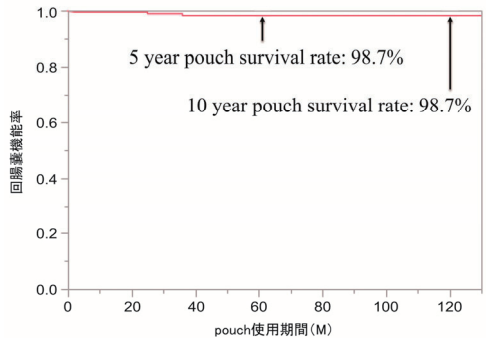
2000年からのCrohn病の累積手術例は816例で、腸管病変に対する手術は716例、標準術式は小範囲切除、狭窄形成術で、174例（24％）を腹腔鏡手術でおこないました。肛門病変に対する手術は161例で、標準術式はseton法ですが、49例（30％）に人工肛門造設をおこないました。腸切除例における5年累積再手術率は15.5％、10年累積再手術率は35.0％でした。再手術例の手術原因となった再燃部位を検討したところ、前回の吻合部に関連する再燃例（吻合部狭窄、吻合部瘻孔、吻合部とその連続する口側の再燃）は再手術例全体の36％、前回吻合をおこなった例の43％であり、再手術の多くは吻合部と関連のない病変によるものでした。このため、長期予後を向上させるためには、吻合法など手術時の対応だけではなく、消化管全体をターゲットとした術後寛解維持療法が重要であると思われます。病態解明や内科治療にも目を向け、集学的な治療方針を探求していきたいと考えております。



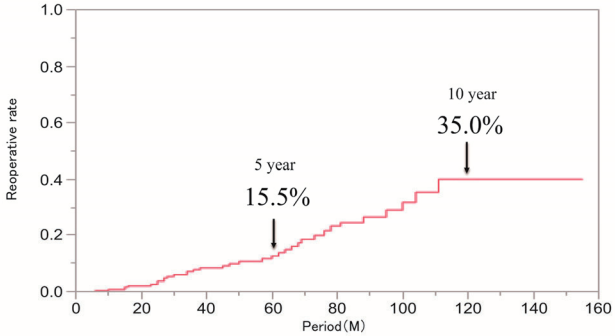
潰瘍性大腸炎初回手術症例数の年次推移



Crohn病手術症例数の年次推移



潰瘍性大腸炎術後回腸嚢機能率（2004～2020）



Crohn病術後再手術率（2004～2020）

肝細胞癌

熊　本　宜　文

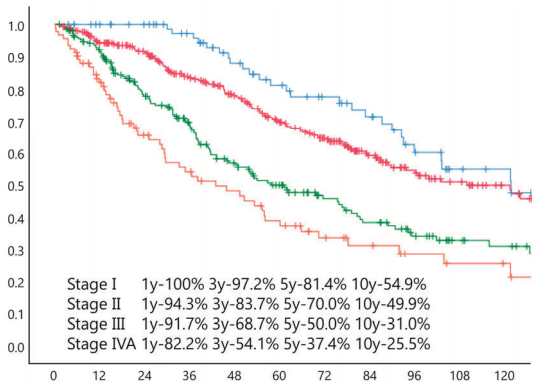
B型C型肝炎持続感染に起因する肝細胞癌は全国的に減少傾向にあり、当科の肝細胞癌の手術症例も減少傾向にある。さらに2020年度は新型コロナウイルス肺炎蔓延の影響か肝細胞癌の新規症例登録は21例と減少が著しかった。1992年から2020年までの肝細胞癌初回肝切除症例は763例、再肝切除症例は92例となった。初回肝切除症例の背景肝炎の原因はB型肝炎3例、C型肝炎5例、NBNCが12例で、NBNCが原因として一番多かった。NBNCの多くは非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）由来であり、NASH由来の肝癌症例では、ウイルス性肝炎症例と比較すると肝機能は保たれているものの、肝臓の定期経過観察がなされていないため約半数の症例が腫瘍径5cmを超えていた。

初回肝切除症例の5年生存率は61.2%、無再発生存率は35.0%で年々上昇しており、Stage別の5年生存率はStageI-81.4%、StageII-70.0%、StageIII-50.0%、StageIVA-37.4%で他施設と比較しても遜色ない結果であった。予後規定因子は、腫瘍個数4個以上、最大腫瘍径50mm以上、fc-inf陽性、vp陽性、AFP400ng/ml以上、Alb4mg/dl以下、ICGR15＝20%以上、血小板10万/mm^{3}以下であった。

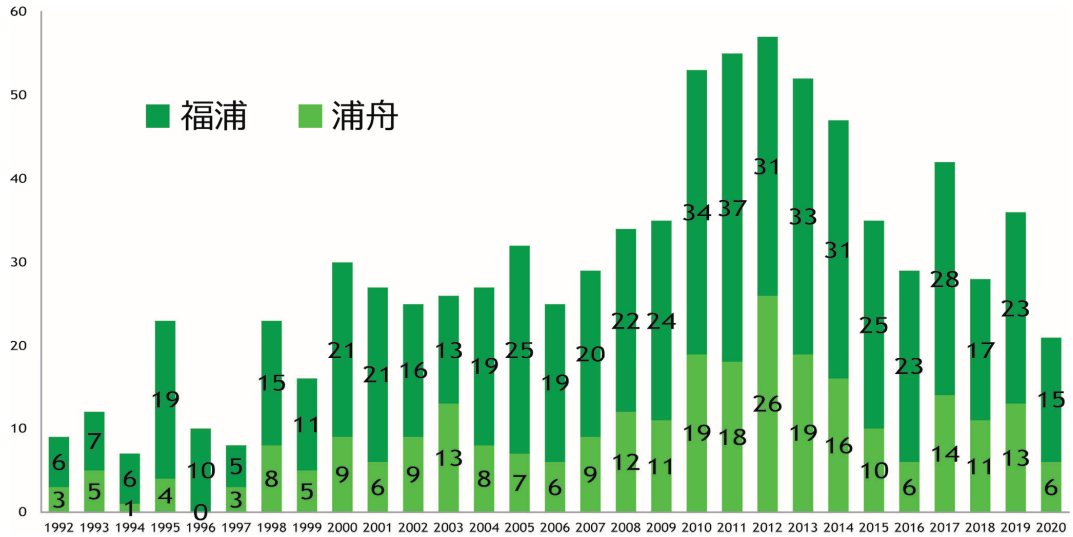
術前肝機能評価に関しては、アシアロSPECT/MDCT融合画像による分肝機能評価を行い、術前肝不全予測に応用している。特に門脈塞栓術後は、体積変化以上に肝機能は非塞栓葉へ移行しており適応の拡大の可能性が示唆されている。

術後管理に関しては肝不全死予防のため、早期予測、早期介入を目指しており、術直後の採血でT.Bil>1.5mg/dlかつAT-III<50%はISGLS定義の肝不全B，Cとなる危険群であり早期介入が必要と考えている。

2020年9月にテセントリク＋アバスチン療法が肝細胞癌に対して初めてのがん免疫療法として承認された。本薬剤は既存の薬剤と比較し奏効率が2倍以上であり、切除不能肝細胞癌を切除可能にconversionする可能性を秘めている。今後はこのような症例を蓄積し報告したいと考えている。



初回肝切除症例Stage別生存率
（癌遺残、在院死、Ablation単独症例除く）



肝細胞癌手術症例数年次変化

転移性肝癌

武　田　和　永

当科では、大腸癌肝転移に対して、1991年から2020年末まで附属・センター2病院で744例に初回肝切除を実施してきました（図1）。2020年は大腸癌肝転移に対して、初回肝切除30例、再肝切除9例の肝切除を施行し、非大腸癌症例（胃癌、膵臓癌、NET肝転移）を含めると、累計42例の肝切除を施行し、mortality 0％でした。大腸癌肝転移初回肝切除症例の5年生存率は55.2％でした（図2）。

腹腔鏡手術も積極的に取り入れる方針としており、2020年は8例（26.6％）に行いました（図3）。今後は年間40-50％を目標に行っていく予定です。現在は肝部分切除、外側区域切除は基本的に腹腔鏡手術で行っていますが、今年度中に、葉切除にも腹腔鏡手術を標準術式として導入していきます。

また、従来からすすめている2期的肝切除、血管合併切除・再建のような術式も積極的に行い、安全かつ確実な肝切除の可能性を探っております（図4）。大腸がん肝転移症例の他に、婦人科疾患、神経内分泌腫瘍、胃癌などからの肝転移の患者に対しても、肝切除が有効な治療となる場合があり、このような場合には、積極的に切除療法を選択しています。

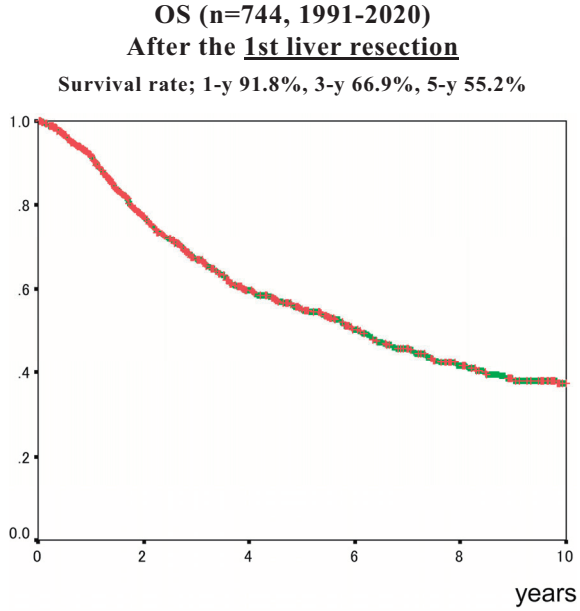


図２　大腸癌肝転移初回肝切除後　生存率

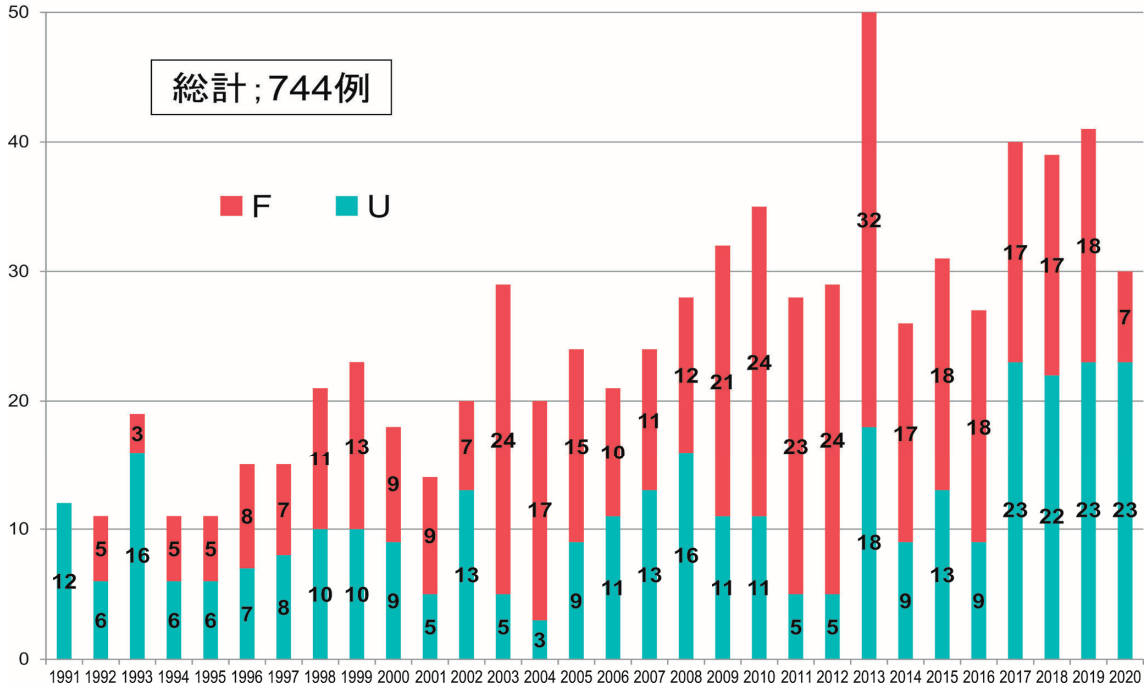


図１　大腸癌肝転移初回肝切除　症例数推移

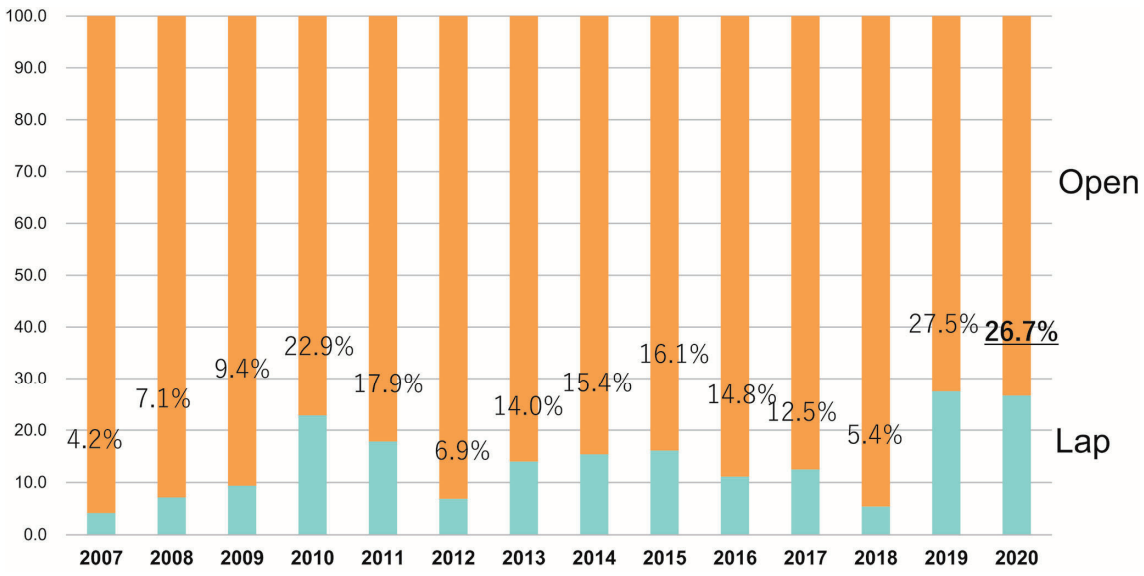


図３　腹腔鏡手術の内訳

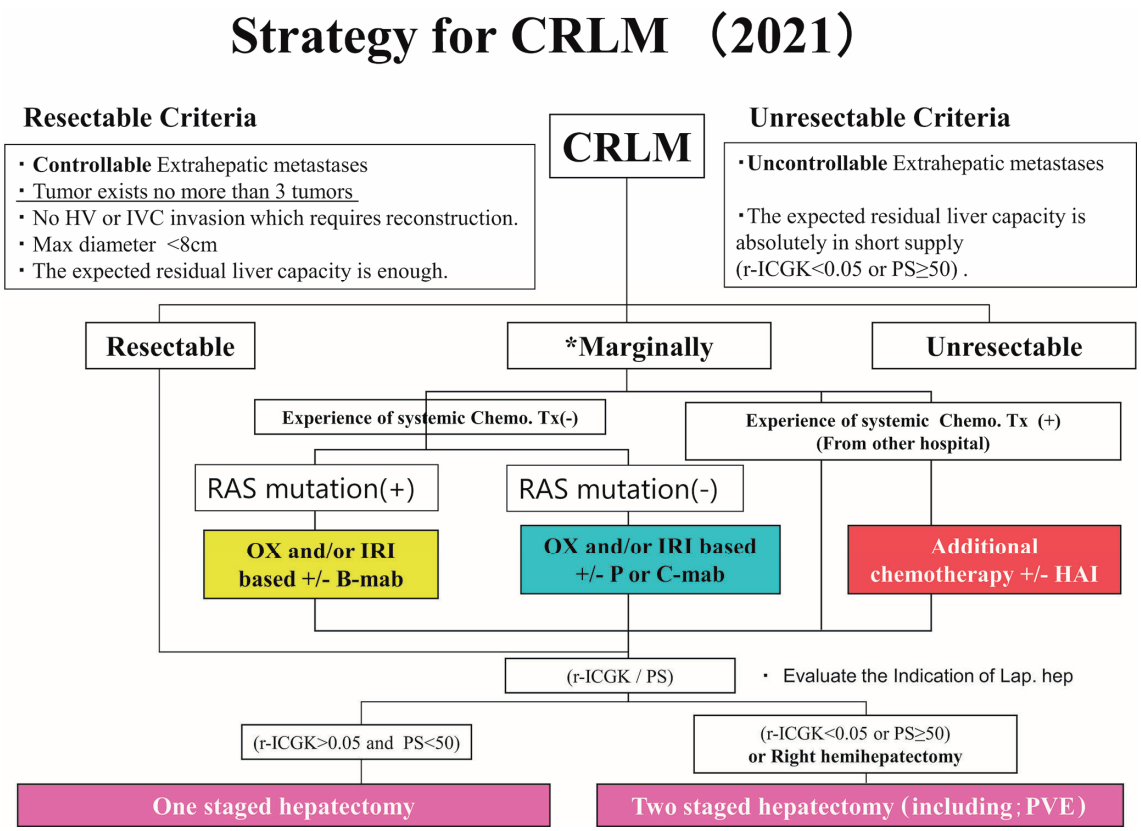


図４　大腸癌肝転移治療方針

胆道悪性疾患

藪下泰宏、松山隆生

胆道悪性疾患の2020年度の切除手術症例数は肝門部領域胆管癌13例、胆嚢癌８例、遠位胆管癌15例、十二指腸乳頭部癌10例、末梢型肝内胆管癌５例、合計51例でした。横浜市内・神奈川県下から多数の貴重な症例をご紹介頂き、胆道癌切除数は増加傾向です（図１）。他院では治療が困難と判断された症例も多く、術前治療から胆道ドレナージなどの管理、手術、術後補助化学療法に至るまで様々な難しい問題を解決しながら治療を行っております。各癌腫別の治療成績としては、肝門部領域胆管癌は1992年からの切除数は293例となり、切除症例全体の５年生存率は37.9％、MSTは37.4ヶ月。胆嚢癌は1992年からの切除数は169例となり、切除症例全体の５年生存率は55.7％、MSTは80.4ヶ月。遠位胆管癌は1992年からの切除数は172例となり、切除症例全体の５年生存率は35.3％、MSTは37.9ヶ月。十二指腸乳頭部癌は1992年からの切除数は141例となり、切除症例全体の５年生存率は65.8％、MSTは144.3ヶ月となっております（図２）。

胆道癌に対する最も効果的な治療法は外科的切除であるものの、外科的切除だけでは成績改善は難しく、術前術後加療も含めた集学的治療が必要になっています。当科でも、胆道癌に対する術前化学療法、術後補助療法を導入して成績向上に努めております。また初診時に切除不能と判断した症例に対しても化学療法を導入し切除を得られる症例も増加してきており、治療成績向上につながっています。今後も胆道癌治療成績向上を目指し、今後も手術手技の研鑽、知識の向上、臨床研究、教育に貢献していきます。

肝門部領域胆管癌	：	293例
胆嚢癌	：	169例
遠位胆管癌	：	172例
十二指腸乳頭部癌	：	141例

累積症例数

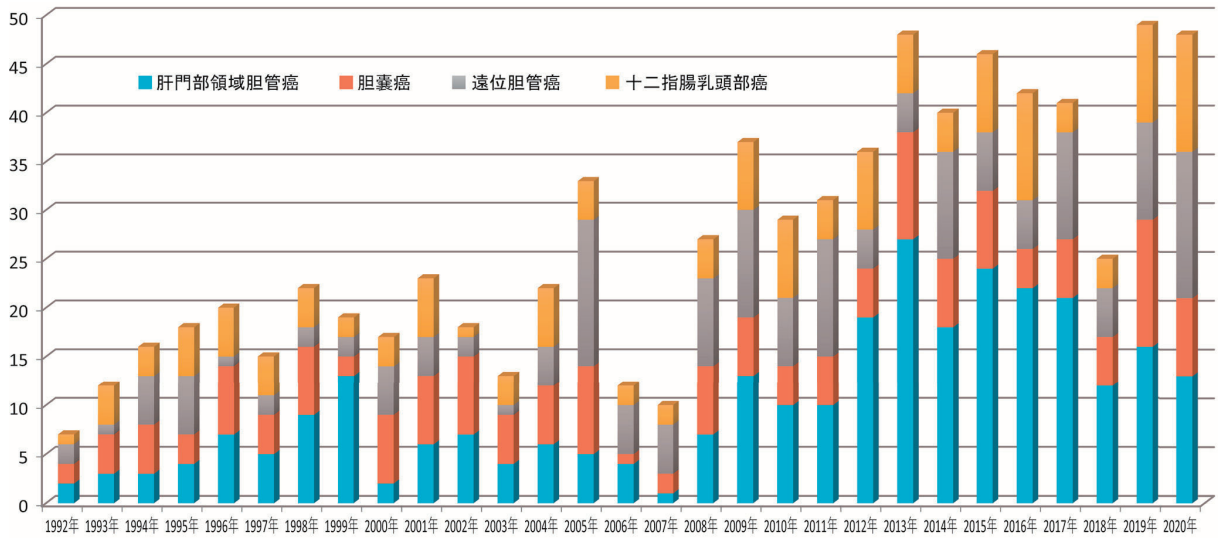
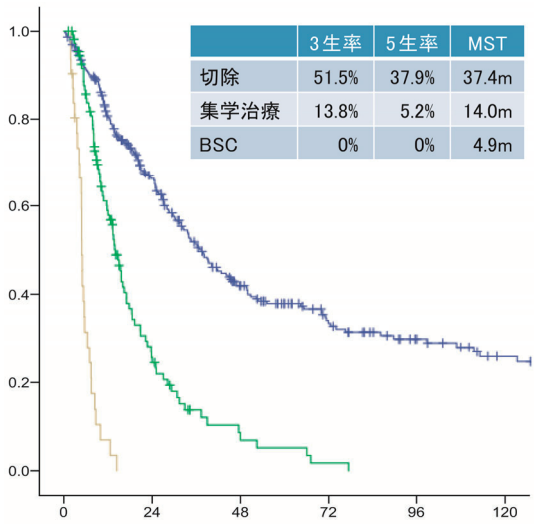
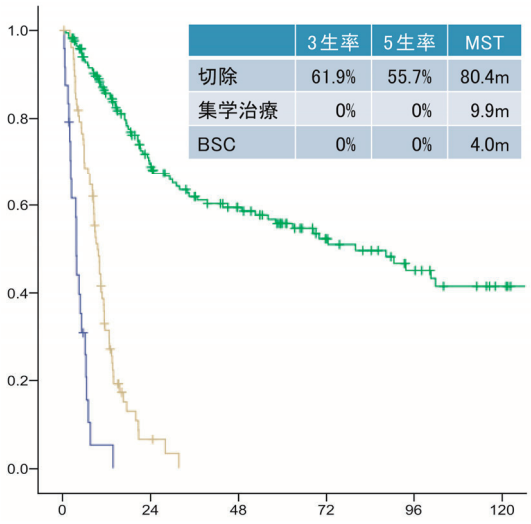


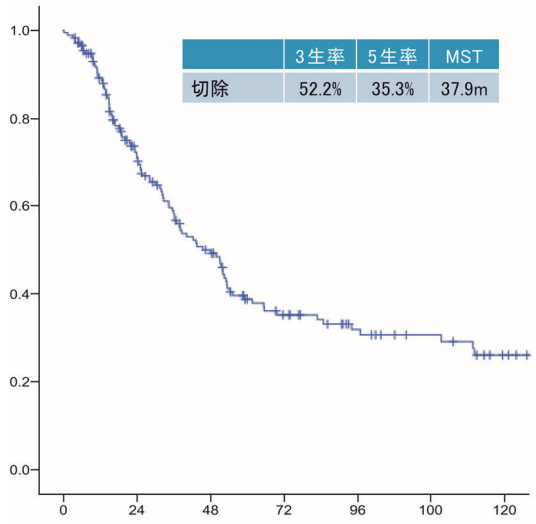
図１　胆道癌切除数 年次推移



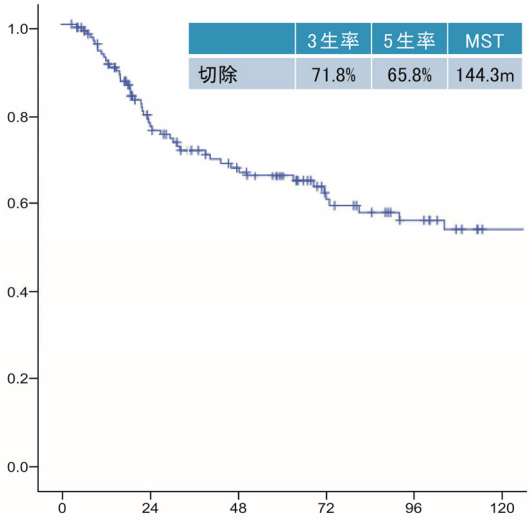
肝門部領域胆管癌治療成績



胆嚢癌治療成績



遠位胆管癌治療成績



十二指腸乳頭部癌治療成績

図２　各癌腫別治療成績

膵　癌

本　間　祐　樹

2019年1月から12月までの膵癌切除例は58例（福浦 49例、センター 9例）であった。膵癌切除症例数（図1）を示すが、2017年に減少傾向にあったものの若干増加し、累積切除症例数は664例となった。

Resectability別の累積生存率は、切除可能（R）、切除境界領域（BRPV, BR-A）であっても、生存中央期間がそれぞれ38.1、28.2、22.6か月であった。しかし、化学療法が発展してきた2010年以降の症例ではR膵癌のMSTは55.5、31.2、28.6か月であり（図2）、切除成績は着実に改善している。

教室では切除例に対し、積極的に術前化学放射線療法を導入し、BR膵癌に対し、2008年からジェムザール＋S1, 2016年からジェムザール＋アブラキサンを用いたNACRTを導入した。さらに2018年より切除可能膵癌に対してもジェムザール＋S1によるNACRTを導入し、更なる予後改善を目指している。

一方で低侵襲手術として年間15-20件の腹腔鏡下膵切除を行っている。2021年はRobot支援下膵体尾部切除を導入予定である。またクリニカルパスの積極的な活用、患者説明動画の作成などを行い、今後も市民に信頼される病院・診療科を目指し、改善を図っていく。

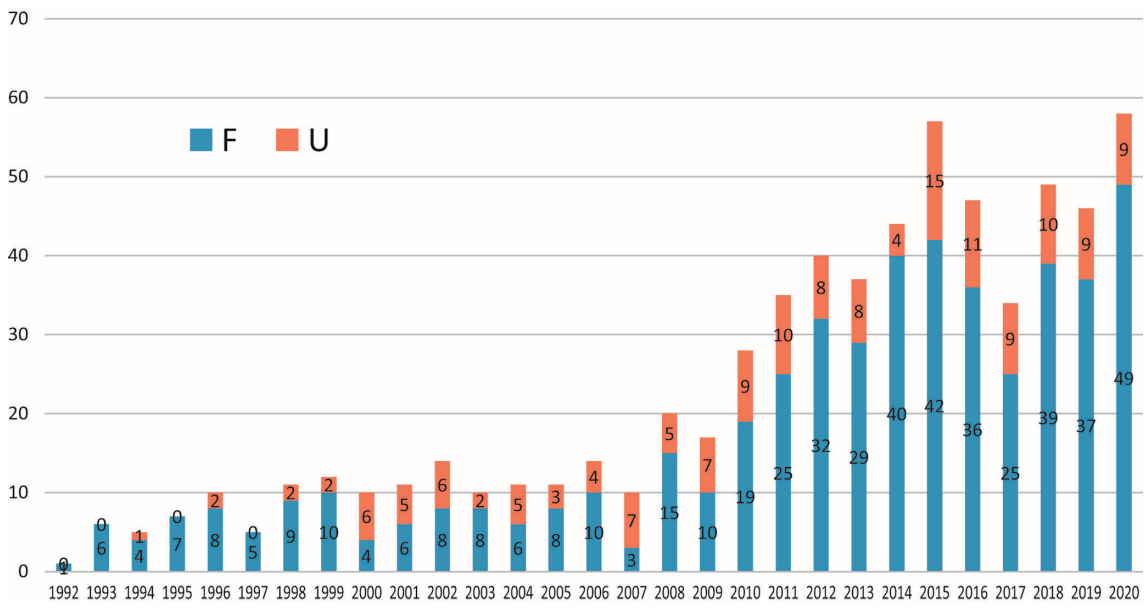
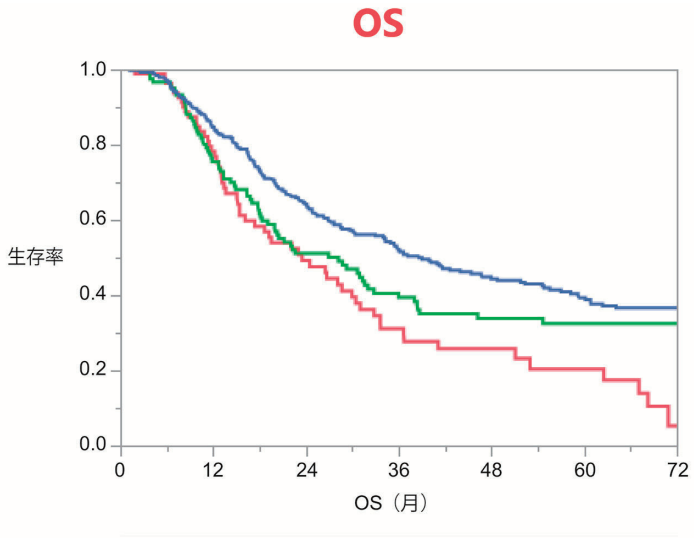


図１　膵癌（IPMC含む）　切除数　年次推移



	MST:	3yr-	5yr-
R:	55.5m	59%	46%
BRPV	31.2	42%	40.9%
BRA	28.6	39%	26%

図 2　Survival rate of resected case since 2010

生体部分肝移植

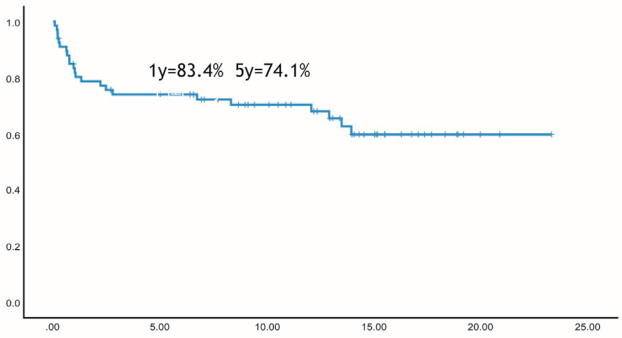
熊　本　宜　文

2020年度は4例の生体肝移植目的の紹介があり1例の生体部分肝移植を施行しました。残りの3例はドナー予定者の肝容量不足、ドナー予定者の脂肪肝、レシピエント予定者の肝機能が良好で移植に至りませんでした。

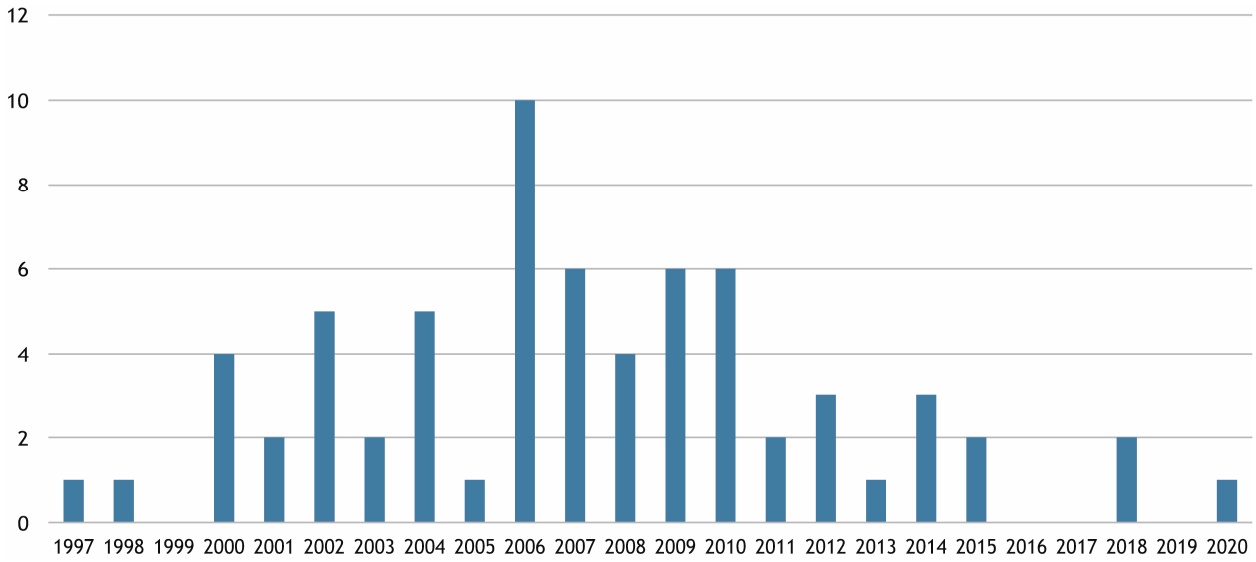
当科の肝移植は、1997年から開始し2020年12月現在、計67例となりました。1年生存率は83.4％、5年生存率は74.1％（図）と、成人生体部分肝移植全国平均生存率を上回っております。原疾患の内訳は、肝細胞癌（n=15)、B型肝炎肝硬変（n=13)、劇症肝炎（n=11)、原発性胆汁性肝硬変（n=8)、C型肝炎肝硬変（n=6)、アルコール性肝硬変（n=5)、原発性硬化性胆管炎（n=2)、自己免疫性肝炎（n=2)、胆道閉鎖症（n=2)、その他（n=3）となっています。

術後早期回復のため生体部分肝移植術にもERASを導入しております。内容としましては、①外来で術前術後経過の説明、②リハビリテーション科による入院前リハビリテーション、③口腔外科による術前歯科検診、④術前からのBCAA、亜鉛投与、⑤術前シンバイオティクスの導入、⑥SVVによる術後管理、⑦術翌日からのリハビリテーション、⑧術翌日の抜管を行っております。導入後の12例では、生存率100％を維持しています。

現在、脳死肝移植施設認定に向けて症例を集積しております。脳死肝移植実施施設は全国25施設で、関東地方は、東京大学、慶応大学、自治医科大学、成育医療センター、順天堂大学、信州大学、東京女子医大の7施設で、神奈川県には認定施設はありません。当院のみが、神奈川県下で成人の肝移植をおこなっており、横浜は全国一番の人口を有する政令指定都市であるという社会的背景から、当院でも脳死肝移植施設認定を目指しております。脳死肝移植施設認定には症例の蓄積が必要であるため、関連病院から移植となるような急性・慢性の肝不全、Child C肝細胞癌症例のご紹介をお待ちしております。

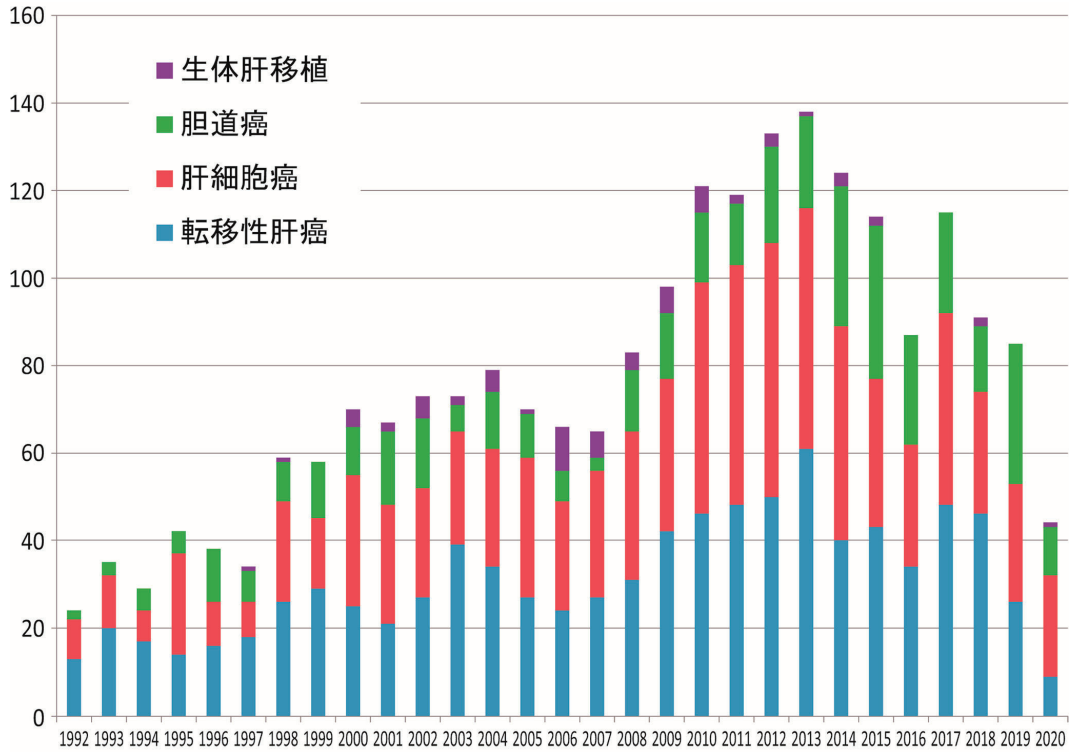


全生存率

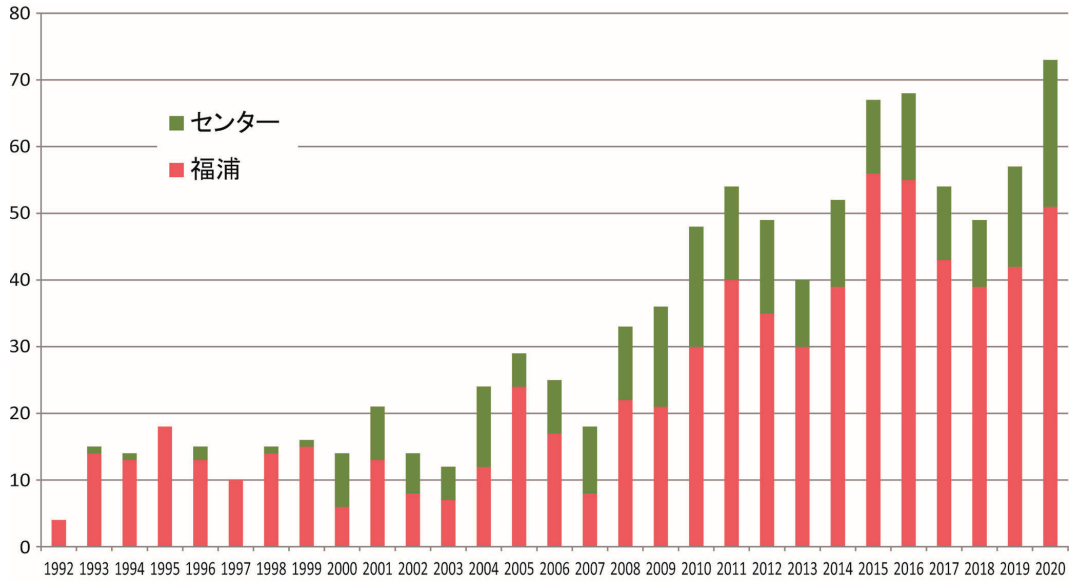


生体部分肝移植症例数　67例

年間手術件数の推移



年間肝切除数の推移



膵頭十二指腸切除症例数